

No.235

2020年
1月号



さくら

図書館だより



(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

あけましておめでとうございます

より充実した図書館サービスが提供できるよう務めてまいりますので、本年もよろしくお願いたします。(職員一同)



展示のご案内

展示期間 1月30日(木)まで

★メイン展示

『楽しい冬の過ごし方』

今回のメイン展示は「楽しい冬の過ごし方」と題して、

- ・寒い日はおうちで楽しく過ごしましょう
- ・あったかくすごそう
- ・雪と氷のものがたり

という3つのコーナーを設けました。

ぜひ、お立ち寄りください。



●メイン展示図書より(抜粋)

「てむすび」・『岸本葉子の「俳句の学び方」』
 「最高の入浴法」・「ほっ、とスープ」
 「ぐるぐる編みのメビウスヌード」・「きらきら」
 「ゆきがやんだら」・「スケートボーイズ」

★サブ展示

『食を考える』

1月24日から30日までは「全国学校給食週間」です。「給食」に関連する本を初め、食に関する本を集めました。ぜひ、お越しください。



●サブ展示図書より(抜粋)

「給食のひみつ」・「めざせ! 給食甲子園」
 「イチからつくるポテトチップス」
 「食品ロスの大研究」・「すくもの食育」

展示のご案内



宿毛小学校2年生がおすすめのむかしばなしの紹介を「ひろがれおもしろ山」と題して、大きな作品にして図書館に展示してくれています。児童コーナーに展示していますので、ぜひ、ご覧ください。

見に来てね



読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

時代考証家のきもの指南

山口順子 著
徳間書店

きものは、誕生・七五三・成人式・結婚など人生の様々な儀礼を彩る日本の伝統。しかし「こんな時、何を着ればいい？」と困ってしまうことはありませんか？本書ではきもの誕生から時代に沿って変遷してきた経緯を紹介。「どうしてこれを着るようになったか」がわかれば自然と何をどう着ればよいかがわかってきます。時代劇の制作の現場で時代考証家として活躍する著者がきもの歴史から着付に必要な小物まで詳しく説明。きものを選ぶ時の一助になる一冊です。

(山口)

(一般)

わすれなぐさ 勿忘草の咲く町で

夏川草介 著
角川書店

安曇野の小さな総合病院を舞台に、新米研修医と看護師の奮闘を描いた連作短編小説。高齢化が進む地域医療の山積みの課題の中、自らの理想と現実との葛藤、命の尊厳とは…。

『神様のカルテ』の著者が贈る、重いテーマを扱いながらも自然と心温まり元気をもらえる一冊。随所に散りばめられた信州の風景にも注目です。

(樫田)

(児童)

せかいのくにでおめでとう！

野村たかあき 著
講談社

大みそか、日本ではお寺から除夜の鐘が鳴り響き、午前0時になると初詣が始まります。

アメリカの大みそかでは、タイムズスクエアに、100万人もの人がカウントダウンをするために集まります。

他の国の子どもたちはどんなお正月を過ごしているのかな？

世界14か国のお正月行事が楽しくわかる絵本となっています。

(岡村)

(児童)

ノーベル賞と アルフレット・ノーベル

こどもくらぶ 編
岩崎書店

世界でもっとも権威がある賞と言われている「ノーベル賞」。

ダイナマイトを発明したアルフレット・ノーベルの遺言によってつくられたことを知っていますか。

この本は、ノーベルだけでなく、ノーベル賞を受賞した人たちについても書かれています。

ノーベル賞の歴史を知って、自分たちの身のまわりで、どんな活用がされているのか、調べてみるのも楽しいのではないのでしょうか。

(尾崎)

ひとり芝居「天の魚（てんのいを）」 山下量子

先日、宿毛市でひとり芝居が開催されるというので足を運んでみた。

ひとり芝居というものは私にとって初めてだったが、表現するものは映像であれ、舞台であれ、書き物であれ、必ず表現者と受取り手という図式があり、他者への発信という共通のテーマゆえ、得るものが必ずある。

仕事の折り合いをつけ、会場に向かうと駐車場は既に沢山の車であふれていた。

このひとり芝居は、“天の魚”とって、宿毛の橋上出身の俳優である川島宏知さんが演じる、水俣病におかされながらも懸命に生きた海の男とその孫の話である。10年前にも公演があったというから、足を運んだ人もいるかもしれない。

その海の男のモデルは、実在の漁師であり名を半永多良喜という。その孫は、今でも実存しており、胎児性水俣病患者の半永一光さんという方だそうだ。

“天の魚”の原作は、作家である石牟礼道子さんの作品「苦海浄土」であり、その中の一章「天の魚」をもとに、舞台俳優の砂田明さんが脚色・構成したひとり芝居である。砂田さんは、93年に故人となり、その遺志を引き継ぎ、全国で唯一、演じているのが川島宏知さんなのである。

約80分の舞台を、たった一人、川島さんが演じた。

照明や音、ナレーションも多少の助けになるかもしれないが、全てはその演技にかかっている。が、その言葉使いといい、抑揚といい、声の出し方から身体の動かし方まで、まあ1人でよくここまで臨場感を出せるものだとは心底驚いた。その演技力は、あたかもそこに他の人々が存在するかのように空間を創り上げている。

これがひとり芝居なのか…。

映画などの映像制作では、映像をカットして繋げることが出来るため、俳優は、台詞をすべてつなげて覚える必要は無い。シーン毎に覚えれば良い。しかし、芝居となると、いきなり本番、やりなおしはきかない。台詞につまっても、間違えても、観客は全てを見ている。そんな難しい舞台をライブで1人でこなし、80分の間、つまることなく台詞を話し、演じ続ける難しさがどれほどのものか。

この方は、どれだけの練習をしてきたのだ

ろう…。

その芝居の深さとその裏にある努力に感銘を受けつつも、最後に川島さんが口にした言葉が心に刺さった。

「水俣病問題はまだ終わっていない」

おそらく、その迫真の演技の全てを通して川島さんが伝えたかったことはこの一言に集約されていた。

…水俣病というと、学生のころ四大公害病の1つとして教科書で学んでから、大人になってそこまで耳にすることは無かった。その訴訟や補償などは既に終わっているものだと思っていた。しかし、それは私の大きな勘違いだったようだ。

この令和を迎えた今でもなお、多くの方が認定や損害賠償を求めているというのだ。

朝日新聞社によると1995年、水俣病の政治的解決策は約1万人が対象となり、それでも被害を訴える人がいたため2009年の政治的解決策は、約3万6千人が対象となった。毎日新聞によると、2019年5月の時点で、認定患者は計2,283人、うち約85%は既に亡くなっている。同月の南日本新聞によると、いまだ1,500人以上の人が認定申請中、司法的解決を求めているという。

水俣病は、当時、日本が高度経済成長期のまっただ中にある時に起こった。原因は、熊本県水俣市にある科学製品を作る企業チッソ(株)が、その工程でメチル水銀を含む廃液をそのまま海に流したことによる。メチル水銀は近くの沿岸の魚介類に蓄積し、今度はそれを食べる住民の体内に入り、脳神経を蝕んでいった。壊された神経細胞は元には戻らず、頭痛や手足のしびれに始まり、運動失調から視野の狭窄、構音障害、重度の場合は死に至ったという。

天の魚では、当初、「伝染病」として勘違いされていたこの公害病の発症者が敬遠されていた様子も描かれている。

無知であることは無いに等しい。

水俣病について全く無知であった私が、この公演をきっかけに水俣病の現状を知ることが出来たことをありがたく思う。

そういう意味で、このひとり芝居「天の魚」は、芝居をはるかに超える芝居だったと思う。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 1 「書くだけで人生が変わる自己肯定感ノート」
中島輝
- 2 「女たちのシベリア抑留」 小柳ちひろ
- 3 「話しベタさんでも伝わるプレゼン」 清水久三子
- 4 「高血圧でもフレイルは防げる」 原田和昌
- 5 「志麻さんの気軽に作れる極上おやつ」 志麻
ジョナサン・ドローリ
- 7 「ダンス部ノート」 石原久佳
- 8 「だれとでも会話がとぎれない!1分間ペラペラ英
会話」 小林真美
- 9 「絲的ココロエ」 絲山秋子
- 9 「黒武御神火御殿」 宮部みゆき
- 9 「清く貧しく美しく」 石田衣良
- 9 「首」 北野武
- 9 「抵抗都市」 佐々木謙
- 9 「作ってあげたい小江戸ごはん」 高橋由太
- 9 「魔法使いと最後の事件」 東川篤哉
- 9 「世界が僕らを嫌っても」 片山恭一
- 9 「できない相談」 森絵都
- 9 「オカシナ記念病院」 久坂部羊
- 9 「ぷくぷく」 森沢明夫
- 9 「気がつけば、終着駅」 佐藤愛子
- 9 「まずはこれ食べて」 原田ひ香
- 9 「地面師たち」 新庄耕
- 9 「信長、天を墮とす」 木下昌輝

※左側の数字は図書の分類を表しています。
0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「日本を変えた地味スゴ歴史人物伝」 伊藤純郎
 「令和のころ -万葉の世界と梅花の宴-」 上野誠
 「しょうがくせいのおばけずかん -かくれんぼう-」
 斉藤洋
 「台湾のひみつ -日本と台湾のきずな-」 BIGUN
 「『いただきます』を考える -大切なごはん和田ん
 ぼの話-」 生源寺眞一
 「おばけのアッチおもっちゃでおめでとう」 角野栄子
 「歴史のなかの子どもたち」
 フィリップ・ウィルキンソン
 「みけねえちゃんにいうてみな モフモフさいこう!」
 村上しいこ
 「かいけつゾロリスターたんじょう」 原ゆたか

絵本



- 「ひとりではっち」 くすのきしげのり
 「せかいのくにでおめでとう!」 野村たかあき
 「おれ、よびだしになる」 中川ひろたか
 「ちび竜」 工藤直子
 「みずたまり」 アデレイド・ホール
 「10にんのせんにん」 佐々木マキ
 「パンダしりとりコアラしりとり -つぎつぎつな
 がる-」 石津ちひろ
 「ゆきのけっしょう」 武田康男
 「まわるおすしやさん」 藤重ヒカル

★このほかにもたくさんの図書が入っております。
 図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、
 そちらもぜひご覧ください。

1月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 は休館日
 ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>
 メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp